

## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	漢字・一般常識
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	1学期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	20時間
授業回数	10回
授業概要	一般教養として、社会で求められる漢字の知識を身に付ける。
授業の進め方	問題集に基づき、指定された範囲の確認テストを実施する。
達成目標	日本ビジネス技能検定協会漢字検定2級に合格する。
教科書	問題集・プリント
特記	
授業計画	1 訓読み・送り仮名 2 熟語 3 異字同訓・同音異義 4 誤字訂正1 5 誤字訂正2・類義語 6 反対語 7 漢字の意味・使い方 8 項目別模擬試験 9 直前模擬試験1 10 直前模擬試験2
成績評価方法 (試験実施方法)	模擬試験100% 模擬試験における得点で評価
備考	

## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	パソコン実習	
実務家教員授業		
学部・学科	保育専攻学科	
履修年次	1年次	
開講学期	2学期	
科目区分	必修	
授業方法	演習	
授業時間	20時間	
授業回数	10回	
授業概要	パソコンでの演習を通して操作方法を学ぶ	
授業の進め方	テキスト、配布プリントを使用して実践力を養う	
達成目標	卒業後必要となる知識・技術を身につける	
教科書	オリジナルテキスト、配布プリント	
特記		
授業計画	1	パソコンの基本的操作とインターネットの利用法、ネチケット
	2	文書の作成と管理
	3	一般的なビジネス文書の作成
	4	シンプルなレポートや報告書の作成
	5	ビジネス文書の作成方法の復習
	6	イラストや図形を使ったビジュアルな文書の作成
	7	写真の挿入や加工方法
	8	画像の編集方法
	9	H P の作成・活用方法①
	10	H P の作成・活用方法②
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と課題提出、試験により評価	
備考		

## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	コミュニケーション概論 I
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	1学期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	80時間
授業回数	40回
授業概要	円滑な人間関係の基礎となるコミュニケーションスキルを学び、演習を通してスキルの向上を図る
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、知識・スキルの定着を図る
達成目標	保育者として自己表現ができるようになる
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 コミュニケーションとは</li> <li>2 コミュニケーションの必要性①</li> <li>3 コミュニケーションの必要性②</li> <li>4 自己紹介①</li> <li>5 自己分析①</li> <li>6 自己分析②</li> <li>7 自己分析③</li> <li>8 自己分析④</li> <li>9 他己紹介①</li> <li>10 他己紹介②</li> <li>11 他己分析①</li> <li>12 他己分析②</li> <li>13 自己の長所の抽出①</li> <li>14 自己の長所の抽出②</li> <li>15 自己の長所の抽出③</li> <li>16 会話技術の向上(ロールプレー)①</li> <li>17 会話技術の向上(ロールプレー)②</li> <li>18 会話技術の向上(ロールプレー)③</li> <li>19 会話技術の向上(ロールプレー)④</li> <li>20 会話技術の向上(ロールプレー)⑤</li> <li>21 幼児との関わり①</li> <li>22 幼児との関わり②</li> <li>23 幼児との関わり③</li> <li>24 保育現場でのコミュニケーションとは</li> <li>25 コミュニケーションをとる対象者</li> <li>26 幼児とのコミュニケーションポイント</li> <li>27 幼児とのコミュニケーション実践①</li> <li>28 幼児とのコミュニケーション実践②</li> <li>29 幼児とのコミュニケーション実践③</li> <li>30 幼児とのコミュニケーション実践③</li> <li>31 幼児とのコミュニケーション実践④</li> <li>32 保護者とのコミュニケーションポイント</li> <li>33 保護者とのコミュニケーション実践①</li> <li>34 保護者とのコミュニケーション実践②</li> <li>35 保護者とのコミュニケーション実践③</li> <li>36 保護者とのコミュニケーション実践④</li> <li>37 保護者とのコミュニケーション実践⑤</li> <li>38 保育職員とのコミュニケーションポイント</li> <li>39 保育職員とのコミュニケーション実践①</li> <li>40 保育職員とのコミュニケーション実践②</li> </ol>
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と課題提出、試験により評価
備考	

## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	図画工作
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	1学期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	40時間
授業回数	20回
授業概要	図画工作の基礎を学ぶ
授業の進め方	個人作成、グループ作成
達成目標	絵画、工作の基礎技術を身につける
教科書	配布プリント・資料
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 デッサン（静物）①</li> <li>2 デッサン（静物）②</li> <li>3 デッサン（自画像）①</li> <li>4 デッサン（自画像）②</li> <li>5 デッサン（自画像）③</li> <li>6 絵の具を使った絵画①</li> <li>7 絵の具を使った絵画②</li> <li>8 絵の具を使った絵画③</li> <li>9 工作（切り紙）①</li> <li>10 工作（切り紙）②</li> <li>11 工作（切り紙）③</li> <li>12 工作（行事に合わせて）①</li> <li>13 工作（行事に合わせて）②</li> <li>14 工作（行事に合わせて）③</li> <li>15 工作（廃材使用）①</li> <li>16 工作（廃材使用）②</li> <li>17 工作（廃材使用）③</li> <li>18 年齢に合った制作①</li> <li>19 年齢に合った制作②</li> <li>20 年齢に合った制作③</li> </ol>
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と作品（制作物）により評価
備考	

## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	ビジネスマナー
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	1学期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	業界、企業、施設で必要なマナーを演習を通して学ぶ
授業の進め方	問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う
達成目標	社会人としての意識の向上を図る
教科書	オリジナルテキスト・配布プリント・資料
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会人と学生との違い(働くとは)①</li> <li>2 社会人と学生との違い(働くとは)②</li> <li>3 社会人としての心構え①</li> <li>4 社会人としての心構え②</li> <li>5 仕事選びの基準①</li> <li>6 仕事選びの基準②</li> <li>7 業界研究①</li> <li>8 業界研究②</li> <li>9 業界研究③</li> <li>10 企業研究①</li> <li>11 企業研究②</li> <li>12 企業研究③</li> <li>13 企業研究④</li> <li>14 企業研究⑤</li> <li>15 様々な社会保障について①</li> <li>16 様々な社会保障について②</li> <li>17 様々な社会保障について③</li> <li>18 様々な社会保障について④</li> <li>19 他業種との連携①</li> <li>20 他業種との連携②</li> <li>21 他業種との連携③</li> <li>22 他業種との連携④</li> <li>23 業界時事①</li> <li>24 業界時事②</li> <li>25 業界時事③</li> <li>26 業界時事④</li> <li>27 業界時事⑤</li> <li>28 業界時事⑥</li> <li>29 模擬効果測定</li> <li>30 効果測定</li> </ol>
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価
備考	

## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	ボランティア概論
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	1学期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	ボランティア活動について学び、体験を通して対応スキルを向上させる
授業の進め方	希望の職種などの外部施設でボランティア活動を行う
達成目標	ボランティアマインドを実践を通して学ぶ
教科書	配布プリント・資料
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ボランティア活動とは</li> <li>2 ボランティア活動と実習の違い</li> <li>3 ボランティア活動の心構え①</li> <li>4 ボランティア活動の心構え②</li> <li>5 さまざまなボランティア</li> <li>6 ボランティア活動方法①</li> <li>7 ボランティア活動方法②</li> <li>8 ボランティア活動方法③</li> <li>9 学内ボランティア実践又は外部ボランティア①</li> <li>10 学内ボランティア実践又は外部ボランティア②</li> <li>11 学内ボランティア実践又は外部ボランティア③</li> <li>12 学内ボランティア実践又は外部ボランティア④</li> <li>13 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑤</li> <li>14 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑥</li> <li>15 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑦</li> <li>16 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑧</li> <li>17 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑨</li> <li>18 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑩</li> <li>19 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑪</li> <li>20 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑫</li> <li>21 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑬</li> <li>22 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑭</li> <li>23 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑮</li> <li>24 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑯</li> <li>25 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑰</li> <li>26 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑱</li> <li>27 ボランティア活動報告①</li> <li>28 ボランティア活動報告②</li> <li>29 ボランティア活動報告③</li> <li>30 ボランティア活動報告④</li> </ol>
成績評価方法 (試験実施方法)	出席とレポートにより評価
備考	

## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	卒業研究
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	3学期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	個人・グループにて研究項目を選択し、研究を進めより知識を深める
授業の進め方	個人研究、グループ研究、全体発表
達成目標	卒業後必要となる知識・技術の理解を深める
教科書	オリジナルテキスト・レジュメ
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 卒業研究に関する学習の進め方</li> <li>2 研究テーマの理解</li> <li>3 研究テーマの決定</li> <li>4 研究テーマの個人研究①</li> <li>5 研究テーマの個人研究②</li> <li>6 研究テーマの個人研究③</li> <li>7 研究テーマの個人研究④</li> <li>8 研究テーマの個人研究⑤</li> <li>9 グループ研究①</li> <li>10 グループ研究②</li> <li>11 グループ研究③</li> <li>12 グループ研究④</li> <li>13 グループ研究⑤</li> <li>14 研究発表①</li> <li>15 研究発表②</li> </ol>
成績評価方法 (試験実施方法)	出席とレポートにより評価
備考	

## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	実習指導 I
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	1学期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	施設実習を円滑に進めるための知識・技術・態度について学ぶ
授業の進め方	グループワークと実技演習
達成目標	施設内で行う施設職員の様々な職業内容を理解する
教科書	実習の記録と指導案、保育専門職と保育実践、配布プリント・資料
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 実習の概要・意義・目的の確認</li> <li>2 実習先研究①</li> <li>3 実習先研究②</li> <li>4 実習先研究③</li> <li>5 実習生としての心構えの確認</li> <li>6 実習生マナー①</li> <li>7 実習生マナー②</li> <li>8 実習生マナー③</li> <li>9 実習計画について</li> <li>10 実習計画に基づく保育実践</li> <li>11 考察について</li> <li>12 考察について</li> <li>13 日誌・記録の取り方①</li> <li>14 日誌・記録の取り方②</li> <li>15 日誌・記録の取り方③</li> </ol>
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価
備考	



## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	保育・幼稚園実習 I
実務家教員授業	○
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	2学期
科目区分	必修
授業方法	実習
授業時間	80時間
授業回数	10日
授業概要	職員として必要な基礎知識や基礎技術を学ぶ
授業の進め方	有識者の指導を基に実践的な知識や技術を学ぶ
達成目標	施設内で行う施設職員の様々な業務内容を理解し、実践できるようにする
教科書	実習の記録と指導案、保育専門職と保育実践、実習日誌
特記	実務家教員は児童福祉施設等で勤務している現役の職員
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園の役割と機能               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 幼稚園の生活と一日の流れ</li> <li>(2) 幼稚園教育要領の理解と教育の展開</li> </ol> </li> <li>2. 子ども理解               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの観察とその記録による理解</li> <li>(2) 子どもの発達過程の理解</li> <li>(3) 子どもへの援助やかかわり</li> </ol> </li> <li>3. 教育内容・教育環境               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 計画に基づく教育内容</li> <li>(2) 子どもの発達過程に応じた教育内容</li> <li>(3) 子どもの生活や遊びと環境構成</li> <li>(4) 子どもの健康と安全</li> </ol> </li> <li>4. 指導計画の作成、実践               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育課程に基づく指導計画の作成</li> <li>(2) 作成した指導計画に基づく実践と評価</li> </ol> </li> <li>5. 幼稚園教諭の業務と職業倫理               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 多様な教育の展開と幼稚園教諭の業務</li> <li>(2) 多様な教育の展開と幼稚園教諭の職業倫理</li> </ol> </li> </ol>
成績評価方法 (試験実施方法)	実習内容・実習簿評価により評価する。
備考	

## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	小児援助技術 I
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	1学期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	80時間
授業回数	40回
授業概要	乳児、幼児とのかかわり方を演習を通して学ぶ
授業の進め方	問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う
達成目標	子どもの個別対応方法を身につける
教科書	保育所保育指針、子どもの発達理解と援助
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育における子どもの理解</li> <li>2 表現演習①</li> <li>3 子どもに対する関わりと共感的理解</li> <li>4 表現演習②</li> <li>5 子どもの生活や遊び</li> <li>6 表現演習③</li> <li>7 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達</li> <li>8 表現演習④</li> <li>9 子ども相互の関わりと関係づくり</li> <li>10 表現演習⑤</li> <li>11 集団における経験と育ち</li> <li>12 個別援助①</li> <li>13 個別援助②</li> <li>14 発達における葛藤やつまずき</li> <li>15 個別援助③</li> <li>16 個別援助④</li> <li>17 保育の環境の理解と構成</li> <li>18 個別援助⑤</li> <li>19 個別援助⑥</li> <li>20 環境の変化や移行</li> <li>21 個別援助⑦</li> <li>22 個別援助⑧</li> <li>23 子ども理解のための観察・記録と省察・評価</li> <li>24 個別援助⑨</li> <li>25 個別援助⑩</li> <li>26 子ども理解のための職員間の対話</li> <li>27 個別援助⑪</li> <li>28 個別援助⑫</li> <li>29 子ども理解のための保護者との情報共有</li> <li>30 個別援助⑬</li> <li>31 個別援助⑭</li> <li>32 発達の課題に応じた援助と関わり</li> <li>33 個別援助⑮</li> <li>34 個別援助⑯</li> <li>35 特別な配慮を要する子どもの理解と援助</li> <li>36 個別援助⑰</li> <li>37 個別援助⑱</li> <li>38 発達の連続性と就学への支援</li> <li>39 模擬効果測定</li> <li>40 効果測定</li> </ol>
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価
備考	

## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	小児援助技術Ⅱ
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	2学期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	80時間
授業回数	40回
授業概要	介護職の理解、障害者(児)のこころとからだのしくみについて学ぶ
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る
達成目標	介護職員初任者研修取得を目指す
教科書	初任者研修テキスト(長寿社会開発センター)
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 多様なサービスの理解</li> <li>2 仕事内容や働く現場の理解</li> <li>3 職業倫理</li> <li>4 介護におけるチームのコミュニケーション</li> <li>5 基本的な考え方</li> <li>6 こころのしくみの基礎的理解①</li> <li>7 こころのしくみの基礎的理解②</li> <li>8 からだのしくみの基礎的理解①</li> <li>9 からだのしくみの基礎的理解②</li> <li>10 人権と尊厳を支える介護</li> <li>11 障害者総合支援制度</li> <li>12 障害に伴うこころとからだの変化と日常生活</li> <li>13 家族への支援</li> <li>14 生活と家事</li> <li>15 快適な住居環境整備と介護</li> <li>16 障害者と健康</li> <li>17 障害の基礎的理解①</li> <li>18 障害の基礎的理解②</li> <li>19 障害の医学的側面、生活障害、心理・講堂の特徴、かかわり支援等の基礎的知識</li> <li>20 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護</li> <li>21 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護</li> <li>22 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護</li> <li>23 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護</li> <li>24 介護課程の基礎的理解①</li> <li>25 介護課程の基礎的理解②</li> <li>26 介護課程の基礎的理解③</li> <li>27 総合生活支援技術演習①</li> <li>28 総合生活支援技術演習②</li> <li>29 総合生活支援技術演習③</li> <li>30 総合生活支援技術演習④</li> <li>31 総合生活支援技術演習⑤</li> <li>32 総合生活支援技術演習⑥</li> <li>33 総合生活支援技術演習⑦</li> <li>34 場面を想定した生活支援演習①</li> <li>35 場面を想定した生活支援演習②</li> <li>36 場面を想定した生活支援演習③</li> <li>37 場面を想定した生活支援演習④</li> <li>38 場面を想定した生活支援演習⑤</li> <li>39 場面を想定した生活支援演習⑥</li> <li>40 場面を想定した生活支援演習⑦</li> </ol>
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と授業への参加姿勢、実践スキルの習熟状況によって評価する。
備考	

## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	小児援助実践
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	3学期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	80時間
授業回数	40回
授業概要	小児援助技術で学んだ基礎を基に、保育士としての援助や態度の基本を理解し、演習する
授業の進め方	問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う
達成目標	子どもの発達状況に応じた援助実践について理解する
教科書	保育専門職と保育実践
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 子ども理解のための観察・記録と評価①</li> <li>2 子ども理解のための観察・記録と評価②</li> <li>3 子ども理解のための観察・記録と評価③</li> <li>4 子ども理解のための観察・記録と評価④</li> <li>5 子ども理解のための観察・記録と評価⑤</li> <li>6 子ども理解のための観察・記録と評価⑥</li> <li>7 子ども理解のための観察・記録と評価⑦</li> <li>8 子ども理解のための観察・記録と評価⑧</li> <li>9 子ども理解のための観察・記録と評価⑨</li> <li>10 子ども理解のための観察・記録と評価⑩</li> <li>11 発達の課題に応じた援助と関わり①</li> <li>12 発達の課題に応じた援助と関わり②</li> <li>13 発達の課題に応じた援助と関わり③</li> <li>14 発達の課題に応じた援助と関わり④</li> <li>15 発達の課題に応じた援助と関わり⑤</li> <li>16 発達の課題に応じた援助と関わり⑥</li> <li>17 発達の課題に応じた援助と関わり⑦</li> <li>18 発達の課題に応じた援助と関わり⑧</li> <li>19 発達の課題に応じた援助と関わり⑨</li> <li>20 発達の課題に応じた援助と関わり⑩</li> <li>21 子どもを理解する視点を考える①</li> <li>22 子どもを理解する視点を考える②</li> <li>23 子どもを理解する視点を考える③</li> <li>24 子どもを理解する視点を考える④</li> <li>25 子どもを理解する視点を考える⑤</li> <li>26 子どもに対する共感的理解について①</li> <li>27 子どもに対する共感的理解について②</li> <li>28 子どもに対する共感的理解について③</li> <li>29 子どもに対する共感的理解について④</li> <li>30 子どもに対する共感的理解について⑤</li> <li>31 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について①</li> <li>32 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について②</li> <li>33 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について③</li> <li>34 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について④</li> <li>35 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について⑤</li> <li>36 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について⑥</li> <li>37 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について⑦</li> <li>38 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について⑧</li> <li>39 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について⑨</li> <li>40 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について⑩</li> </ol>
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価
備考	

## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	障害児援助論
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	2学期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	40時間
授業回数	20回
授業概要	障害児や障害者の支援方法を学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	障害への理解と援助方法を理解する
教科書	社会的養護と障害児保育
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 対象別にみた障害の理解①</li> <li>2 対象別にみた障害の理解②</li> <li>3 対象別にみた障害の理解③</li> <li>4 対象別にみた障害の理解④</li> <li>5 対象別にみた障害の理解⑤</li> <li>6 障害児(者)自立支援①</li> <li>7 障害児(者)自立支援②</li> <li>8 障害児(者)自立支援③</li> <li>9 障害児(者)自立支援④</li> <li>10 障害児(者)自立支援⑤</li> <li>11 事例研究①</li> <li>12 事例研究②</li> <li>13 事例研究③</li> <li>14 事例研究④</li> <li>15 事例研究⑤</li> <li>16 支援者の理解①</li> <li>17 支援者の理解②</li> <li>18 支援者の理解③</li> <li>19 支援者の理解④</li> <li>20 障害児(者)福祉の今後の課題</li> </ol>
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価
備考	

## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	保育実践演習
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	2学期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	保育実習体験を振り返り、場面ごとの子どもとの対応シミュレーションを行う
授業の進め方	問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う
達成目標	場面に応じた子どもの対応方法を身につける
教科書	保育専門職と保育実践
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育実技実践とは</li> <li>2 保育園実習経験から保育実践を振り返る①</li> <li>3 保育園実習経験から保育実践を振り返る② (グループワーク)</li> <li>4 児童福祉施設実習経験から保育実践を振り返る①</li> <li>5 児童福祉施設実習経験から保育実践を振り返る② (グループワーク)</li> <li>6 保育者としての配慮①</li> <li>7 保育者としての配慮②</li> <li>8 保育場面に応じた対応実践①</li> <li>9 保育場面に応じた対応実践②</li> <li>10 保育場面に応じた対応実践③</li> <li>11 保育場面に応じた対応実践④</li> <li>12 保育場面に応じた対応実践⑤</li> <li>13 保育場面に応じた対応実践⑥</li> <li>14 保育場面に応じた対応実践⑦</li> <li>15 保育場面に応じた対応実践⑧</li> <li>16 保育場面に応じた対応実践⑨</li> <li>17 保育場面に応じた対応実践⑩</li> <li>18 保育場面に応じた対応実践⑪</li> <li>19 保育場面に応じた対応実践⑫</li> <li>20 保育場面に応じた対応実践⑬</li> <li>21 保育場面に応じた対応実践⑭</li> <li>22 保育場面に応じた対応実践⑮</li> <li>23 保育場面に応じた対応実践⑯</li> <li>24 保育場面に応じた対応実践⑰</li> <li>25 保育場面に応じた対応実践⑱</li> <li>26 保育場面に応じた対応実践⑲</li> <li>27 保育場面に応じた対応実践 振り返り① (グループワーク)</li> <li>28 保育場面に応じた対応実践 振り返り② (個人学習)</li> <li>29 保育場面に応じた対応実践 振り返り③ (個人学習)</li> <li>30 保育場面に応じた対応実践 振り返り④ (まとめ)</li> </ol>
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価
備考	

## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	保育相談支援
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	2学期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	相談援助が必要な方に対する支援方法を学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	相談支援に必要な知識、技術、支援方法を理解する
教科書	配布プリント・資料
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 相談支援の基本</li> <li>2 相談支援が必要な様々な場面</li> <li>3 相談支援に必要な技術①</li> <li>4 相談支援に必要な技術②</li> <li>5 相談支援に必要な技術③</li> <li>6 相談支援に必要な技術④</li> <li>7 DVの事例およびその保護者支援①</li> <li>8 DVの事例およびその保護者支援②</li> <li>9 DVの事例およびその保護者支援③</li> <li>10 障害受容の事例および保護者支援①</li> <li>11 障害受容の事例および保護者支援②</li> <li>12 障害受容の事例および保護者支援③</li> <li>13 個人面談について</li> <li>14 個人面談事例研究</li> <li>15 相談援助のまとめ</li> </ol>
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価
備考	

## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	言語表現
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	2学期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	保育所保育指針に示す5領域のうち「表現」について演習を通して学ぶ
授業の進め方	問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う
達成目標	対象年齢に合わせた言葉掛けやアプローチ方法を身につける
教科書	保育所保育指針
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 表現とは</li> <li>2 5領域における表現①</li> <li>3 5領域における表現②</li> <li>4 素話①</li> <li>5 素話②</li> <li>6 素話③</li> <li>7 様々な表現①</li> <li>8 様々な表現②</li> <li>9 様々な表現③</li> <li>10 様々な表現④</li> <li>11 様々な表現⑤</li> <li>12 様々な表現⑥</li> <li>13 年齢に合わせた言葉掛け①</li> <li>14 年齢に合わせた言葉掛け②</li> <li>15 効果測定</li> </ol>
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価
備考	



## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	子どもの保健
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	1学期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	発達段階の特質について基礎的に理解したうえで、児童の発達の遅れや講堂の以上について理解する
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する
教科書	子どもの保健 I
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの生活習慣と健康</li> <li>2 事故と安全 子どもと事故</li> <li>3 保育における衛生管理と安全管理①</li> <li>4 保育における衛生管理と安全管理②</li> <li>5 保育における衛生管理と安全管理③</li> <li>6 子どもの病気①</li> <li>7 子どもの病気②</li> <li>8 子どもの病気③</li> <li>9 子どもの病気④</li> <li>10 子どもの病気予防①</li> <li>11 子どもの病気予防②</li> <li>12 子どもの病気予防③</li> <li>13 施設における対応方法①</li> <li>14 施設における対応方法②</li> <li>15 確認テスト</li> </ol>
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価
備考	

## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	乳児保育Ⅱ
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	2学期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	乳児保育の理論・知識、乳児期における大人の役割等を理解し、保育現場での具体的課題を学ぶ
授業の進め方	問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う
達成目標	乳児期における発育・発達を理解し、技術を習得する
教科書	保育所保育指針解説
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 乳児保育の理念と歴史、役割</li> <li>2 保育所における乳児保育の現状と課題</li> <li>3 乳児期の環境と人間関係</li> <li>4 乳児期の全体的な計画と指導計画①</li> <li>5 乳児期の全体的な計画と指導計画②</li> <li>6 乳児保育の保育技術① 食事 沐浴</li> <li>7 乳児保育の保育技術② 排泄</li> <li>8 子どもに対する共感的理解について①</li> <li>9 子どもに対する共感的理解について②</li> <li>10 子どもを理解する視点を考える①</li> <li>11 子どもを理解する視点を考える②</li> <li>12 子ども相互の関わりと関係づくりを築くための保育士の働きかけ①</li> <li>13 子ども相互の関わりと関係づくりを築くための保育士の働きかけ②</li> <li>14 子育て支援・家庭支援における子どもの理解①</li> <li>15 子育て支援・家庭支援における子どもの理解②</li> </ol>
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価
備考	

## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	児童レクリエーション
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	3学期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	80時間
授業回数	40回
授業概要	環境ごとの児童とのかかわり方を演習を通して学ぶ
授業の進め方	問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う
達成目標	環境の特徴を生かした児童のかかわり方を身につける
教科書	配布プリント・資料
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童に必要な環境構成①</li> <li>2 児童に必要な環境構成②</li> <li>3 児童に必要な環境構成③</li> <li>4 健康に配慮した環境とは①</li> <li>5 健康に配慮した環境とは②</li> <li>6 健康に配慮した環境とは③</li> <li>7 安心・安全な環境とは①</li> <li>8 安心・安全な環境とは②</li> <li>9 安心・安全な環境とは③</li> <li>10 異年齢の集団に対する援助実践①</li> <li>11 異年齢の集団に対する援助実践②</li> <li>12 異年齢の集団に対する援助実践③</li> <li>13 レクリエーション支援の理論①</li> <li>14 レクリエーション支援の理論②</li> <li>15 レクリエーション支援の理論③</li> <li>16 レクリエーション支援の理論④</li> <li>17 レクリエーション支援の理論⑤</li> <li>18 レクリエーション支援の方法①</li> <li>19 レクリエーション支援の方法②</li> <li>20 レクリエーション支援の方法③</li> <li>21 レクリエーション支援の方法④</li> <li>22 レクリエーション支援の方法⑤</li> <li>23 屋内でのレクリエーション実践①</li> <li>24 屋内でのレクリエーション実践②</li> <li>25 屋内でのレクリエーション実践③</li> <li>26 屋内でのレクリエーション実践④</li> <li>27 屋内でのレクリエーション実践⑤</li> <li>28 屋内でのレクリエーション実践⑥</li> <li>29 屋内でのレクリエーション実践⑦</li> <li>30 屋外でのレクリエーション実践①</li> <li>31 屋外でのレクリエーション実践②</li> <li>32 屋外でのレクリエーション実践③</li> <li>33 屋外でのレクリエーション実践④</li> <li>34 屋外でのレクリエーション実践⑤</li> <li>35 屋外でのレクリエーション実践⑥</li> <li>36 屋外でのレクリエーション実践⑦</li> <li>37 季節を考慮したレクリエーション実践①</li> <li>38 季節を考慮したレクリエーション実践②</li> <li>39 季節を考慮したレクリエーション実践③</li> <li>40 季節を考慮したレクリエーション実践④</li> </ol>
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価
備考	

## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	児童レクリエーションⅡ
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	3学期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	40時間
授業回数	20回
授業概要	自ら設定した対象に対し、援助計画の立案、実践の流れを演習を通して学ぶ
授業の進め方	問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う
達成目標	対象の研究、援助計画の立案、実践技術を一連の流れを通して身につける
教科書	配布プリント・資料
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 援助計画について①</li> <li>2 援助計画について②</li> <li>3 援助計画について③</li> <li>4 対象に合わせたレクリエーション計画の作成①</li> <li>5 対象に合わせたレクリエーション計画の作成②</li> <li>6 対象に合わせたレクリエーション計画の作成③</li> <li>7 対象に合わせたレクリエーション計画の作成④</li> <li>8 対象に合わせたレクリエーション計画の作成⑤</li> <li>9 対象に合わせたレクリエーション計画の作成⑥</li> <li>10 対象に合わせたレクリエーション計画の作成⑦</li> <li>11 対象に合わせたレクリエーション実践①</li> <li>12 対象に合わせたレクリエーション実践②</li> <li>13 対象に合わせたレクリエーション実践③</li> <li>14 対象に合わせたレクリエーション実践④</li> <li>15 対象に合わせたレクリエーション実践⑤</li> <li>16 対象に合わせたレクリエーション実践⑥</li> <li>17 対象に合わせたレクリエーション実践⑦</li> <li>18 対象に合わせたレクリエーション実践⑧</li> <li>19 対象に合わせたレクリエーション実践⑨</li> <li>20 対象に合わせたレクリエーション実践⑩</li> </ol>
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価
備考	

## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	発達心理学
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	3学期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	80時間
授業回数	40回
授業概要	養護を実践している施設の現状を理解し、そこで必要なスキルを学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	成長の段階での養護について把握する
教科書	社会的養護と障害児保育
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 小児の発達段階①</li> <li>2 小児の発達段階②</li> <li>3 小児の発達段階③</li> <li>4 小児の発達段階④</li> <li>5 小児の発達段階⑤</li> <li>6 認知の発達①</li> <li>7 認知の発達②</li> <li>8 認知の発達③</li> <li>9 認知の発達④</li> <li>10 認知の発達⑤</li> <li>11 小児の心理①</li> <li>12 小児の心理②</li> <li>13 小児の心理③</li> <li>14 小児の心理④</li> <li>15 小児の心理⑤</li> <li>16 感情の発達①</li> <li>17 感情の発達②</li> <li>18 感情の発達③</li> <li>19 感情の発達④</li> <li>20 感情の発達⑤</li> <li>21 自己の発達①</li> <li>22 自己の発達②</li> <li>23 自己の発達③</li> <li>24 自己の発達④</li> <li>25 自己の発達⑤</li> <li>26 言語と思考の発達①</li> <li>27 言語と思考の発達②</li> <li>28 言語と思考の発達③</li> <li>29 言語と思考の発達④</li> <li>30 言語と思考の発達⑤</li> <li>31 遊びの発達と人間関係①</li> <li>32 遊びの発達と人間関係②</li> <li>33 遊びの発達と人間関係③</li> <li>34 遊びの発達と人間関係④</li> <li>35 遊びの発達と人間関係⑤</li> <li>36 地域医療・地域福祉の活用①</li> <li>37 地域医療・地域福祉の活用②</li> <li>38 地域医療・地域福祉の活用③</li> <li>39 地域医療・地域福祉の活用④</li> <li>40 地域医療・地域福祉の活用⑤</li> </ol>
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価
備考	

## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	養護内容
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	3学期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	40時間
授業回数	20回
授業概要	養護を実践している施設の現状を理解し、そこで必要なスキルを学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	広義の養護について全体像を把握する
教科書	社会的養護と障害者保育
特記	
授業計画	1 養護について① 2 養護について② 3 養護について③ 4 養護について④ 5 医療と養護① 6 医療と養護② 7 医療と養護③ 8 医療と養護④ 9 心身の健康① 10 心身の健康② 11 心身の健康③ 12 心身の健康④ 13 生命の保持と情緒の安定① 14 生命の保持と情緒の安定② 15 生命の保持と情緒の安定③ 16 生命の保持と情緒の安定④ 17 自立支援① 18 自立支援② 19 自立支援③ 20 自立支援④
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価
備考	

## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	音楽・リズム表現 I
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	3学期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	80時間
授業回数	40回
授業概要	音楽がもつ様々な効果と音楽教育の重要性を学ぶ
授業の進め方	講義と実技を通して学ぶ
達成目標	リトミックの基礎を身につける
教科書	ダルクローズシステムによるリトミック、リズム練習とソルフェージュ1
特記	
授業計画	1 音楽表現① (弾き歌い・リズム遊び) 2 音楽表現② (弾き歌い・リズム遊び) 3 音楽表現③ (弾き歌い・リズム遊び) 4 音楽表現④ (弾き歌い・リズム遊び) 5 音楽表現⑤ (弾き歌い・リズム遊び) 6 音楽表現⑥ (弾き歌い・リズム遊び) 7 音楽表現⑦ (弾き歌い・リズム遊び) 8 季節の歌に合わせたリズム遊戯① 9 季節の歌に合わせたリズム遊戯② 10 季節の歌に合わせたリズム遊戯③ 11 季節の歌に合わせたリズム遊戯④ 12 季節の歌に合わせたリズム遊戯⑤ 13 季節の歌に合わせたリズム遊戯⑥ 14 季節の歌に合わせたリズム遊戯⑦ 15 音楽表現総合① (弾き歌い・リズム遊び・遊戯) 16 音楽表現総合② (弾き歌い・リズム遊び・遊戯) 17 音楽表現総合③ (弾き歌い・リズム遊び・遊戯) 18 音楽表現総合④ (弾き歌い・リズム遊び・遊戯) 19 音楽表現総合⑤ (弾き歌い・リズム遊び・遊戯) 20 音楽表現総合⑥ (弾き歌い・リズム遊び・遊戯) 21 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践① 22 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践② 23 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践③ 24 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践④ 25 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑤ 26 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑥ 27 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑦ 28 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑧ 29 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑨ 30 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑩ 31 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑪ 32 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑫ 33 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑬ 34 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑭ 35 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑮ 36 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑯ 37 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑰ 38 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑱ 39 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑲ 40 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑳
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価
備考	

## 授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	音楽・リズム表現Ⅱ
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	3学期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	40時間
授業回数	20回
授業概要	音楽がもつ様々な効果と音楽教育の重要性を学ぶ
授業の進め方	講義と実技を通して学ぶ
達成目標	リトミックの応用を身につける
教科書	ダルクローズシステムによるリトミック、リズム練習とソルフェージュ1
特記	
授業計画	1 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践① 2 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践② 3 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践③ 4 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践④ 5 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑤ 6 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑥ 7 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑦ 8 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑧ 9 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑨ 10 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑩ 11 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑪ 12 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑫ 13 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑬ 14 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑭ 15 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑮ 16 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑯ 17 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑰ 18 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑱ 19 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑲ 20 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑳
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価
備考	